

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度第2回相模原市医療的ケア児等支援地域協議会		
事務局 (担当課)		高齢・障害者福祉課 電話042-707-7055 (直通)		
開催日時		令和8年2月25日(水) 午後7時00分～8時30分		
開催場所		相模原市民会館 2階 第2中会議室 /オンライン		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	11人(高齢・障害者福祉課長、こども施設課総括副主幹、保育課長、陽光園所長、児童発達支援センター所長、支援教育課総括副主幹、高齢・障害者福祉課総括副主幹、同副主幹、同主査2名、同主任)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可
		傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">ポータルサイト作成について</p> <p style="padding-left: 20px;">医療的ケア児等コーディネーターの事業報告について</p> <p>(2) 医療的ケア児等の泊まりの場の運営支援について</p> <p>3 その他</p> <p style="padding-left: 20px;">医療的ケア児等の通いの場の運営支援について</p> <p>4 閉会</p>		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

開会前に事務局より、資料の確認と欠席委員の案内を行った。

1 開会

河合会長より開会の挨拶があった。

2 議事

(1) 報告事項

ポータルサイト作成について

事務局から資料1-1について説明した。

意見等は次のとおり。

(新田委員)

スマートフォンにて確認しているが、子育てサイト相模原のページで医療的ケア児支援ポータルサイトを閲覧するためには、どの目的で探すから入らなくては行けないか。

(高齢・障害者福祉課)

検索エンジンや市ホームページ内で医療的ケア児などのキーワードで検索すると、検索結果の上位に確認できる。

(野々田委員)

産科医療補償制度に関しても組み込んでいただいて細かいところまで、作っていただいているなど感じた。

(河合会長)

市ホームページに掲載されたのが1月19日ということだが、検索回数が上がってくると検索しやすくなる。

(富川副会長)

いずれ年度ごとに閲覧回数の実績が確認できるとよい。

(松岡委員)

ポータルサイトの中で保育・教育の項目が少ないが、例えば、保育教育関係の養成校などで喀痰吸引などの医療的ケアの研修を実施している市内の大学があると思う。そのような研修を受けたい人にとって情報提供みたいなものもあっていいのではないか。そうすれば、医療的ケアを行う担い手が少し増えるのかなと思う。

(保育課)

このポータルサイトの情報は保護者の方向けのような形になっているが、

幅広い活用をしていく趣旨であれば、いただいたご意見のように、市内で実施している喀痰吸引の研修などの情報もポータルサイトに掲載したい。

(新田委員)

ポータルサイトの中の市内の障害福祉サービス等事業所一覧について、余りにも数が多いので、医療的ケアを受けいれているところはここだといった特化した一覧があるとよいと思う。

(高齢・障害者福祉課)

掲載しているものは全ての事業所が記載されており、実際に受入れできるかどうかはその時々でもあると思うが、保護者の方がその中から必要な事業所を探していくことにおいて、負担軽減のお役に立つようにしていきたい。

医療的ケア児等コーディネーターの事業報告

事務局から資料1-2について説明した。

意見等は次のとおり。

(新田委員)

新規の相談者数について、令和5年度は8名、令和6年度は14名だったということだが、今年度は一見新規相談者が減ったように見えるが、多分継続で関わっているのかなと思う。累計で何名ぐらい相談されているのか。

(和田委員)

相談者数は、トータルで43名程である。積み重ねているが、医療的ケアが外れた方もいる。新規の人は現在も繋がってる方が多い。

(野々田委員)

未就学児が多いようだが、具体的な相談内容としてはどのようなものか。

(和田委員)

例えば、退院後の生活やきょうだい児の支援に関する相談が多い。

(須合委員)

母親の精神状態や市外からの転入についての相談もある。

(河合会長)

きょうだい児の相談内容はどのようなものだったか。

(和田委員)

通学支援に関することだったりすると、地域のボランティアやスクールソーシャルワーカーとの繋ぎを行っている。

(須合委員)

保護者がきょうだい児と過ごす時間を確保するため、メディカルショートを利用している事例もある。

(荒川委員)

相談内容の生活技術とはどのようなものか。

(和田委員)

保護者がどのように生活の中で時間を作るかだったり場を広げていったりするかなど生活全般の相談である。

(松岡委員)

今年度医療的ケアのあるお子さんの保育園の入所相談を2件ぐらい受けたが、いずれもきょうだい児がいる。小学校登校時間は午前8時だが、園の受入れは午前8時半以降となっている。その時間に登園することがなかなか難しく登園を早くできないかという相談だったり、実際に預かる時間が短いという相談がある。そのため、保護者が働けないという問題がある。

(支援教育課)

小中学校においても同様の課題がある。学校看護師は、会計年度任用職員であるため、原則午前8時半からの勤務である。その前に、訪問看護ステーションの看護師を配置した例もあるが、現在8時10分から対応できる訪問看護ステーションを探している。

(細田委員)

社会参加・余暇という相談内容があるが、どのような相談内容か。

(須合委員)

自宅で寝たきりな方がいて、ご両親にも負担がなく、かつご本人が少しずつ社会繋がれるような機会に何かないかと検討した。結果として、ご本人は受講されなかったものの、自立促進の講座をオンラインで受講するように調整したといった事例があった。

(2) 医療的ケア児等の泊まりの場の運営支援について

事務局から資料2について説明した。

意見等は次のとおり。

(新田委員)

方策2メディカルショート事業の、18歳未満対象の医療的ケアを要する重症心身障害児の受入れの維持継続というものは、どういう意味か。

(高齢・障害者福祉課)

北里大学病院の小児在宅支援部門に対して、補助をさせていただいていたところだが、平成27年度に事業を開始した際と同じ補助額のままとになっていた。昨今の診療報酬など状況を鑑みて、補助額を増額させていただくという内容である。受入れ対象者が広がるということではない。

(野々田委員)

小児在宅支援部門のほうでは看護師等の負担も増えているので補助の増額

をいただいたものである。対象者の年齢を広げることは難しいが、18才未満の患者に関しては、これまで以上に頑張っていきたい。

(細田委員)

医療型短期入所の事業についても、補助を設けていただいた。看護師が不足しており、募集しても集まらない。また、ベテランの職員が多く、仕事柄職員の身体への負担もあり、努力しているところである。

(高齢・障害者福祉課)

次年度より医療型短期入所事業所への運営補助制度を創設させていただくので、それがいい結果に繋がればと考えている。

(新田委員)

当事業所の利用者にも重症心身障害児の方がいるが、他の短期入所事業所で受入れを一旦中止するということがあり、受入れ先がなくなるのではないかという危機感を持っている。18歳以上の医療的ケア児等の受入れ先の確保も重点目標として取り組んでほしい。

(細田委員)

利用者の安全が確保できない場合、どうしても利用制限を行うことはある。他市の事業所でも利用制限を行ったことがあると聞いている。医療的ケアは、同じ手技でも個別性が高いところあるため、看護師を採用し、さらに育成するまでにはどうしても時間がかかるといったこともご理解いただきたい。

(新田委員)

当事業所でも看護師を募集しているが、なかなか採用に至らない。見学に来られる方もいるが辞退される方もいる。方策3の短期入所の開設促進事業に関する話だが、ある方が高齢者メインの病院の空床型のベッドを使って、短期入所を利用できるという情報を得て保護者が見学に行った。頻回に痰の吸引が必要な方だったが、その病院の看護では時間で吸引するという対応だったことから、この方には利用が難しいと判断となり利用に繋がらなかった。方策3は、実際やっていただきたいが、かなり大変なことであると思っている。

(細田委員)

在宅人工呼吸器の方の短期入所のニーズをひしひしと感じており、市の補助をいただくこととなり、とても後押しされた気になっている。しかし、当施設では13対1の看護基準であるため、人工呼吸器の方の受入れを増やすために、まずは10対1を目指す必要がある。しかしこれは最低条件であり、さまざまな呼吸器の、さまざまなアラーム対応について対応できるように医師やスタッフも経験を積む必要がある。その点をご理解いただきたい。

(野々田委員)

18歳以上で人工呼吸器を利用している患者さんで、受けてくれた病院が1つあった。成人の看護と同じような体制でやるので、相当頑張って見ていただいたと思う。そうやって頑張ってくださった病院もあったのでとても感謝しており、こうやって考えてくださる市にも感謝申し上げたい。

(富川副会長)

方策についてはよい施策であると思うが、実施のハードルは高い。しかし、様々な案を色々な立場から出していけば、よい案も出てくると思う。まずやろうという目標がなければ話が進まないの、目標掲げていただいたことは本当に良かった。何かお手伝いできることがあれば、やっていきたいと思う。

3 その他

医療的ケア児等の通いの場の運営支援について

(高齢・障害者福祉課)

現時点で具体的な内容をお示しすることはできないが、庁内で検討を進めており、いずれ事業所の皆さんとも何らかし意見交換などすることも考えている。スケジュールとしては、令和8年度に実施案を作成し、令和9年度以降に支援策を開始することを目指したいと考えている。

医療的ケア児等受け入れに関するアンケート

和田委員、須合委員及び玉手委員から参考資料1について説明した。

意見等は次のとおり。

(細田委員)

アンケート回収率はどのようになっているのか。また、依頼した事業所数はどれくらいだったか。

(和田委員)

回収率は、この場ではお答えできないが、市内の幅広い種別の事業所を対象とし、事業所の集まりの場などを活用して直接的に150カ所程の事業所へ依頼した。例えば、障がい者関係で44事業所の回答であり、決して多いわけではなかったが、それでもこれだけの事業所は何らかこの医療的ケア児等の受け入れについて回答してくれたということととらえている。

(河合会長)

母数としては、事業所名簿の掲載を参考にし、回答数としては、参考資料の実施概要の6のように、障がい児関係38事業所 障がい者関係44事業所ということ。今回のアンケート結果をブラッシュアップして次年度以降に繋げてほしい。

(新田委員)

医療的ケア児を受け入れている事業所は、本当に人数的にも少ないので、この回答数だけでも、アンケートに答えていただけたことはよかったのではないかと。結果をよくまとめていただいたと思う。

(河合会長)

アンケート結果では先ほどの話に挙がったように看護師の確保が課題にあったり、あとは研修も含めてよいかと思う。医療的ケアの方を受け入れている事業所を事例として見ていただいて、研修として活用していくようなことは可能か。

(和田委員)

コーディネーターの方で対応できる研修となると、新しい研修を立ち上げるのは大変だと思うので既存で行われている研修とどのように関連づけるかを考えたい。また、今のままでもどのようなことなら新たに受け入れができるのかといった細かい調整から、何か少しでもできることがあるか努めたい。

(新田委員)

人材の確保について、看護師の育成はもちろん本当に必要であるが、支援員スタッフも育成することは重要なことである。

(細田委員)

改めて、地域で暮らす人工呼吸器の方たちの問題はとても重要だと思う。

また、入所の療育施設で重症心身障害のある方を長くフォローさせていただいているが、高齢化に伴い胃ろうを造設するなど、新たな医療的ケアが必要になることを経験している。この会議では主に18歳未満の方の支援が大きなテーマとなっているが、一方では、在宅生活をされている成人の方で、新たに医療的ケアが必要になる方々についても考えていく必要があると思う。

(三森委員)

中央区で通学支援事業が試行という形で始まっている。医療的ケア児以外にも対象と聞いている。現在は試行段階であるので、今後、検証結果がわかれば教えてほしい。

(高齢・障害者福祉課)

通学支援事業につきましては、今年度から開始しており、今後検証も行うと思うので、結果については、ご報告させていただきたい。

4 閉会

河合会長から閉会の挨拶があった。

以 上

令和7年度第2回 相模原市医療的ケア児等支援地域協議会

(敬称略)

	所属	氏名	備考	
1	鶴見大学短期大学部	河合 高鋭	会長	出席
2	一般社団法人相模原市医師会	富川 盛光	副会長	出席
3	一般社団法人相模原市医師会	都築 慶光		出席
4	学校法人北里研究所 北里大学病院	野々田 豊		出席
5	一般社団法人相模原市医師会	荒川 雅子		出席
6	社会福祉法人慈恵療育会	細田 のぞみ		出席
7	特定非営利活動法人はる	新田 文恵		出席
8	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 基幹相談支援センター	玉手 邦明		出席
9	相模原市私立保育園・認定こども園園長会 社会福祉法人さがみ愛育会	松岡 裕		出席
10	相模原市幼稚園・認定こども園協会 学校法人山口学園	山口 博美		欠席
11	相模原市立小・中学校長会代表者会 相模原市立谷口小学校	笹嶺 由香		出席
12	神奈川県立相模原中央支援学校	三森 吉徳		出席
13	相模原公共職業安定所	佐々木 学		欠席
14	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 緑障害者相談支援キーステーション	田極 法恵		欠席
15	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 中央障害者相談支援キーステーション	和田 幸恵		出席
16	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 南障害者相談支援キーステーション	須合 優佳		出席